

今年度の特記事項

1. 新型コロナウイルス感染症感染拡大による利用控え、区内介護施設の新設の影響もあり、どの事業も予算策定稼働率を上回ることが出来なかった。
2. 2021年8月にケアハウス非常勤職員1名、2022年2月12日と23日にショートステイ利用者2名が新型コロナウイルス感染症陽性確認された。いずれも他者に感染することなく、終息した。
3. 昨年度に引き続き、コロナ禍でサポート隊の活動中止や行事の縮小などをせざるを得なかったが、オンライン面会やZOOMを利用した利用者同士の交流活動、サポート隊のオンラインでの活動受入れなど「コロナ禍でも行える活動」を積極的に行った。
4. 地域住民に知っていただく活動としてSNSを積極的に活用し情報発信した結果、職員の中にも閲覧している者も多くいることがわかり、改めて職員にもプラザ内の活動状況や法人の理念を共有することができた。
(投稿数 インスタグラム138件 フェイスブック 189件)
5. 2019~2021年度の三年度間は新型コロナウイルス感染症による影響を多大に受けた三年度間であった。感染予防、拡大防止の観点から、介護予防事業やボランティア活動受入れなど地域住民向けの様々な活動を中止せざるを得なくなり、「千代田区東部の安心拠点」という役割を担うべき施設としての機能を十分に果たせなかったのが残念である。しかしながら感染予防を最優先したことで、職員及び利用者の感染を最小限に抑えることができた。
一方、SNSをはじめ、ポスターやチラシなどを用い情報発信やPR活動をすることでプラザの周知にはつなげることができたり、職員の工夫により、オンライン会議システムを利用して、利用者同士の交流やボランティア活動などコロナ禍でも利用者が楽しめる活動を実施出来たことは成果である。